

「第21回 高校進学・進路ガイダンス 主催者交流会 in 千葉」開催報告

国際学部教授 田巻 松雄

2022年1月23日（日）午後に「第21回 高校進学・進路ガイダンス主催者交流会 in 千葉」がオンライン会議で開催された。表題からも伝わってくるように、関東を中心とする様々な地域で高校進学・進路ガイダンスに関わっている関係者間の年に一度の情報・意見交換と交流の場である。今回が21回目なので、2001年から開催されてきたことになる。2018年1月には宇都宮大学で開催されている。自分は宇大開催を含め数回しか参加していないが、今回は「行政との連携」をテーマとするパネルディスカッションに登壇することとなり、最初から最後まで参加した。

まず、茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・静岡・山梨・長野の9県と東京都から今年度実施した（あるいはコロナ禍の影響で実施できなかった）ガイダンスについての報告があった（報告時間各4分）。簡潔にまとめると、ガイダンスは、主に日本語を母語としない外国人生徒と保護者等を対象とするもので、高校入試や日本の教育制度などについての重要な情報を正確に分かりやすく伝えることを目的とする点は共通するが、主催者や内容、スタイルは地域ごとに大きく異なっている。次に、主催地域の千葉県から、「千葉県立生浜高校からの報告」と「フリースクールのアフガニスタン人生徒たち」と題する報告があった（15分×2）。パネルディスカッションは「行政との連携」をテーマとして、自分のほ

かに千葉と茨城の関係者が登壇した（40分）。全体会は以上で終了し、その後、希望者が分散会（40分）と自由意見交換会（20分）に参加した。

「行政との連携」では、主に教育委員会との連携が話題で、どうすれば教育委員会を効果的に動かすことが出来るかに関心が集まったと言える。なかなか効果的に動かすことが出来ない現状が背景にある。茨城では「円卓会議」、千葉では「要望」がキーワードであった。自分はHANDSの全体的な性格を述べたうえで「協議会」を軸に話した。大学が主催者となり、県内全域の自治体と定期的な情報・意見交換を行っている協議会のような組織は他地域にはないこともあり、結構大きな関心を向けられたように感じた。6名前後がルームに分かれた分散会では、八王子在住の方から、八王子には約20もの大学があるが、どうやったらガイダンスに協力してもらえるかとの質問が向けられた。もちろん、これだ！という回答は出せなかった。また、国際学部の外国人生徒入試によって入学した学生たちの様子も聞かれた。

次年度は栃木開催が確定した。様々な地域で実施されているガイダンスの多様な在り方に触れることで、課題を見つめ改善策を考える大きなヒントが得られるだろう。次回の交流会では栃木関係者が一人でも多く参加出来るような準備をしていきたいと思っている。